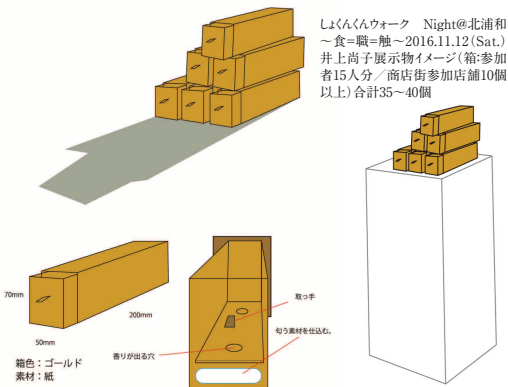


記憶箱 2016

北浦和西口銀座商店街

「食=職=触」から商店街の人々、文化、環境を“匂いの世界”から紐解きます。各商店から切り取られた匂いの記憶の断片(ピース)が箱の中でその存在を静かに物語ります。散策しながら個々が集めた匂いの経験と記憶を他者と分かち合い、語らう言葉は無意識に自分の心を開いていきます。



匂いと記憶をテーマにした空間作品、ワークショップを制作。環境、文化、歴史を匂いから楽しむ「くくんワーク」を日本全国で開催。2016年、Villa Waldberta international artist in residence (Munich) 参加。2017年 Museum Villa Stuck in Munich で展覧会、WS開催予定。

ワークショップ「消える彫刻-巨大シャボン玉」 11月12日(土) 13:00~14:00

北浦和公園 (*雨天時は翌日同時刻に順延。CAF.Nと共催)

シャボン玉には言葉にできない魅力があり、消えるから次の発想と楽しみへ繋げられる。そんなシャボン玉に(巨大なカタチ)を加えた巨大シャボン玉を《消える彫刻》と定義づけして、芸術の観点を自然なカタチで体験できる《アートへの入り口》をつくり、制作と鑑賞を楽しむワークショップを展開している。



シャボン玉研究所所長、立体作家(鉄)。2012年「シャボン玉研究所」を設立。関西を中心に数多くのワークショップを展開。大阪成蹊大学教育学部・芸術学部、同短期大学幼児教育学部非常勤講師。

北浦和おかわり芸術祭の一環として「回遊美術館Ⅲ OKAERI OKAWARI KITAURAWA」を開催します。今回は8人のアーティストが衣・食・住の「食」をメインテーマに、不思議な空間を出現させます。埼玉県立近代美術館での展示にとどまらず、北浦和の駅舎にはじまり、おなじみの北浦和公園やどこか懐かしい北浦和西口銀座商店街、イオン北浦和店まで、各所を巡りながらお楽しみください。「回遊美術館」はSMF(Saitama Muse Forum)が中心となって行ってきた地域連携プログラムで、北浦和のマスコットキャラクター「きたうらワン」もこの事業から生まれました。



関連事業情報

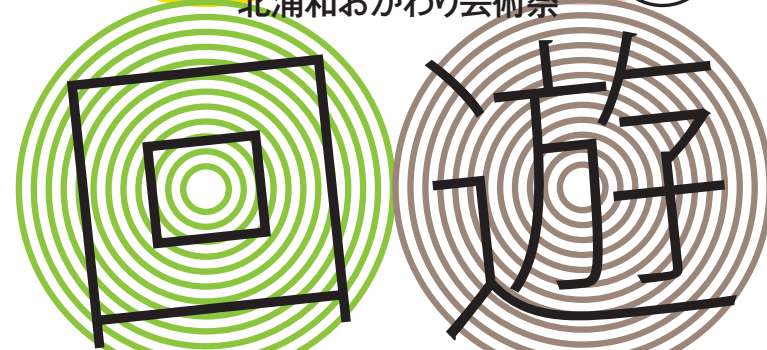
「花咲かアートさんプロジェクト10月29日~11月27日 @北浦和公園」
「小野養豚 食展」9月24日~11月6日 @市民会館おみや SMF学校」
「たまご から から 西尾路子展 11月10日~12月11日 @市民会館おみや SMF学校」

主催:あなたとどこでもアート実行委員会 / SMF(Saitama Muse Forum) / 埼玉県立近代美術館
協力:北浦和西口銀座商店街振興組合・各協力店舗 / 川口信用金庫北浦和支店 / イオン北浦和店 / JR東日本大宮支社(北浦和駅) / CAF.N / 埼玉大学教育学部芸術講座石上研究室
問合せ:あなたとどこでもアート実行委員会(埼玉県立近代美術館内)
Tel : 048-824-0110(中村・菅浦澤・大越) E-mail : SMF.info@artplatform.jp
<http://www.artplatform.jp>

文化庁平成28年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

あなたとどこでもアート
おかわりプロジェクト

北浦和おかわり芸術祭



2016年11月11日(金)~11月20日(日)



埼玉県立近代美術館、北浦和公園、北浦和西口銀座商店街



OKAERI OKAWARI KITAURAWA

さいたまトリエンナーレ2016
市民プロジェクト

SMF
Saitama Muse Forum



Hisao Demise

出店久夫

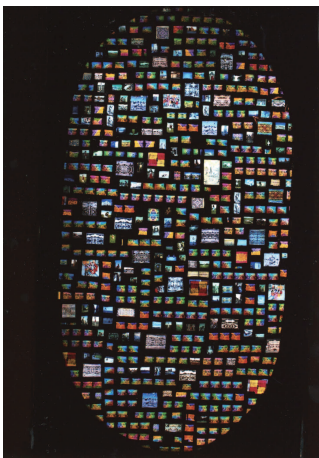


スライドと光による時の窓・時の部屋

2016 (*平面作品も他2カ所に展示)

北浦和駅、川口信用金庫北浦和支店、イオン北浦和店

ステンドグラス風の作品は、写真を撮り始めたころの海外での映像、その後の制作モチーフとして撮ったもの、完成作品図で構成されています。これらの映像(記憶)は私個人を支え励まして、未来に向かって思念を飛ばすエネルギーと成っています。



1945年福井県の海辺で生まれる。1985年頃よりフォトコラージュを始める。第12回エンパ賞美術展にて大賞、最後の第29回毎日現代美術展では準大賞を得る。アナログなモノクロ写真技法で絵画の可能性を探る。

Shiroyuki Iwagami

石上城行

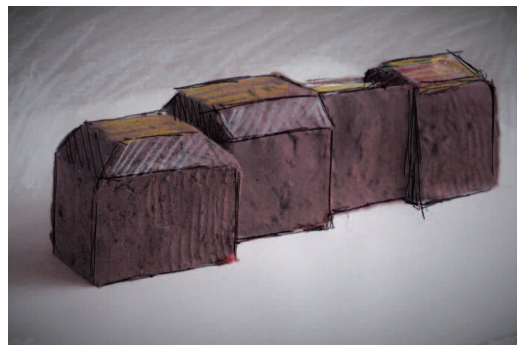


記憶の容(カタチ)—めぐる街なみ—

2016

北浦和西口銀座商店街(ファインズ前、若松湯入口 回遊美術館Ⅲ案内所前、イオン北浦和店東口前)

素材の持つ魅力とシンプルな形状を用いて人々の記憶を回想するきっかけを起こしたいと考えて「記憶の容」という作品を作っている。今回は商店街各所に家のカタチをしたベンチを展示する。行きかう人々に暫しの休息と、街の記憶に思いを馳せるひと時が提供できれば、と願っている。



学生時代から古典技法による人物像などを手掛けてきた。近年はアートプロジェクトやワークショップなど地域でのアート活動へもその活動のフィールドを広げている。

Syuta Mionno

SYUTA (三友周太)



きたうらわ色彩工業所 2016

イオン北浦和店

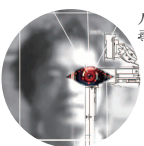
きたうらわ色彩工業所が、直径60cmの筒型の回転式ドラムを使って「ぐるぐるくるくるペインティング」というワークショップを開催し、彩色されたシートを創ってゆきます。みんなで彩色したシートを使って展示を行います。



1967年米国ニューヨーク生。埼玉川越で育つ。新薬の開発に携わる傍ら、美術家として参加型の制作ワークショップを企画、アートを通じて人と人との関わりを結ぶことをテーマに活動を行う。

Masanori Furukawa

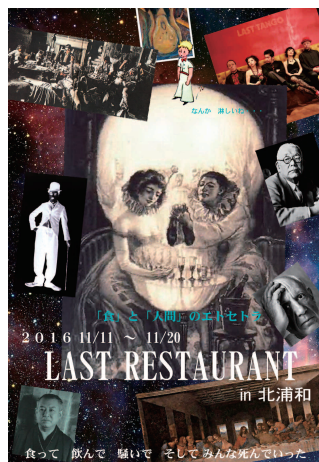
古川勝紀



LAST RESTAURANT in 北浦和 2016

若松湯入口 回遊美術館Ⅲ案内所

「食・快楽」と「死・憂愁」を味わう哲学的高級レストラン。様々なアーティスト達の「食」への嗜好から彼らの真の思考回路を解明しようとする新たな試み?しかし所詮、春を愛する人は春が好きだけで、夏や、秋や、冬より、春が好きだけという当たり前すぎることを解明しようとするムダな試み。暇な人!是非来てください!!!



ピカソをこよなく愛し、絵画や、陶芸を制作していたが、2011年自分は絵が好きで画家にならなかったのではなく、ただ文化祭が好きだったということに気づく。以後、旗本退屈男を目指し、日々うろうろしている。

Yotsumi Ono

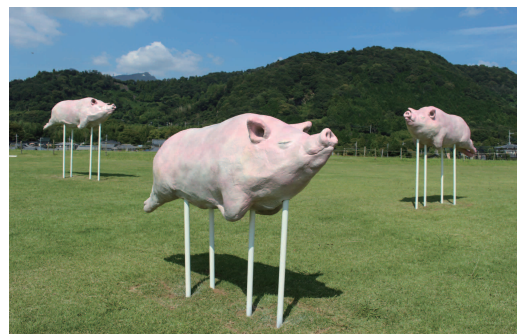
小野養豚ん



…Pigeeep…Pigeeep… 2016

北浦和公園

小野養豚んは、養豚場にて育ったことを芸術活動の軸として、身近な存在である豚をモチーフにして作品制作をしています。人間の姿や性格を豚に投影し、描出することで、生きることの欠点あるいは美点を探求し、作品を通じて人間社会を映し出します。一方で、生きることや食べることの根源に迫り、「生」を軸としたテーマで「生きる」ことの喜びと「いのちをいただく」ことの有り難みをコンセプトとして表現活動をしております。



養豚農家にて育ち、豚をテーマに芸術活動を行う。埼玉県立近代美術館、川崎市立美術館、中之条ビエンナーレなど展覧会多数出品。アートワークショップを実施するなど各地で豚の芸術活動を行う。

Masochi Majima

間島 領一



寿司ボーイ、寿司ガール Sushi Boy, Sushi Girl 2016

埼玉県立近代美術館

寿司は「食」の「美」そして「術」である。ボーイもガールも寿司をガバツと丸呑みすれば、いさかいても国境も飛び越えて「心」の「平和」が訪れる。寿司は美術であり、心と心の架け橋になりえることへのビジュアル化に、無謀にもトライする。



参考写真: バーガーボーイ、バーガーガール 2000

1996「まんま」芦屋市立美術館、1997「マジマー+in東京」ミヅマアートギャラリー、2000「マジマー+in渋谷」ハラミージュアムアーク、2002「マジマ+in札幌」食欲連鎖、11川崎市岡本太郎美術館など、食をテーマとした個展多数。